

令和7年度 事業報告書

1 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称

静岡県東部理容美容学園

②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス等

住所：静岡県三島市寿町3番42号

電話番号：055-975-2236、FAX番号：055-975-2192

ホームページアドレス：<https://www.t-ribiyou.com>

(2) 建学の精神

「豊かな教養とすぐれた技術をもつ優秀な理容師・美容師を養成し、社会に役立つ人材を育成する。」

(3) 学校法人の沿革

年月日	事項
S30.12.7	学校教育第4条並びに私立学校法第5条により、静岡県東部理容美容専門学校の設置許可(静岡県指令知総第776号)設置課程、設置学科、学級数及び学級定員 昼間課程 理容学科 1学級 50名、美容学科 1学級 50名 夜間課程 理容学科 1学級 50名、美容学科 1学級 50名
S31.2.27	校舎落成式 三島市芝町長林2754番地の1 (現東海道新幹線三島駅歩廊の地)
S31.3.26	理容師法美容師法第3条第1項により、理容師及び美容師養成施設の厚生大臣指定許可(厚生省静衛第230号)
S31.4.7	静岡県東部理容美容専門学校開校 第1回入学式
S31.10.5	通信課程の併設許可(厚生省静衛第963号)。 設置学科・学級数及び学級定員 理容学科 1学級 50名、美容学科 1学級 50名
S31.12.20	学校法人静岡県東部理容美容専門学校寄附行為許可(静岡県指令知総第1504号)
S32.8.28	夜間課程休校届提出

S33. 6. 16	昼間課程の学級数及び学級定員の変更（増加）許可（厚生省静衛第 452 号） 理容学科 2 学級 100 名、美容学科 2 学級 100 名
S37. 4. 1	校服制定
S37. 5. 1	現在地に移転（東海道新幹線敷設工事のため） 三島市寿町 3 番 42 号 新校舎落成式
S39. 12. 9	夜間課程廃止（厚生省収環第 463 号）
S40. 6. 22	創立 10 周年記念祝典
S42. 7. 10	下田分教場設置許可：賀茂地区通信課程面接指導のため（静岡県衛生部長通達第 456 号）
S45. 3. 18	入学生激減により 8 名の教職員に退職勧告
S46. 1. 16	静岡県各種学校に対し教具等整備費補助金の交付決定
S50. 5. 26	創立 20 周年記念祝賀会 校内にて
S51. 12. 8	静岡県東部理容美容高等専修学校（学校教育法の一部改正により専修学校への切替）設置許可（学文第 464 号） 設置課程、設置学科、学級数及び学級定員 高等課程 理容学科 1 学級 40 名、美容学科 1 学級 80 名 付帯事業 通信教育部 高等課程 理容学科 1 学級 40 名、美容学科 1 学級 40 名
S51. 12. 8	学校法人静岡県東部理容美容学園寄附行為（変更）許可（学文第 478 号）
S52. 4. 1	学校法人静岡県東部理容美容学園 静岡県東部理容美容高等専修学校発足
S54. 3. 16	静岡県私立専修学校に対し運営費補助金の交付決定
S57. 2. 29	木造校舎を鉄筋校舎への改築及び旧館補修工事竣工
S60. 10. 7	校旗作成
S60. 10. 14	創立 30 周年記念式典挙行 三島雅叙園にて
H4. 3. 16	学校法人静岡県東部理容美容学園寄附行為（変更）許可（学第 976 号）
H9. 7. 18	学校名変更届（施行 H10. 4. 1）
H9. 8. 4	高等課程廃止 専門課程設置許可（学第 499 号）（施行 H10. 4. 1） 学校法人静岡県東部理容美容学園寄附行為（変更）許可（学第 500 号）（施行 H10. 4. 1）
H9. 8. 29	校舎の用途変更届、校舎の増築届（竣工 H10. 1. 10）

H10. 4. 1	理容師法第3条3項及び美容師法第4条第3項（厚生省収生衛第405号）により 学校法人静岡県東部理容美容学園 静岡県東部理容美容専門学校（専門課程）発足
H11. 4. 1	服装自由化
H12. 2. 8	専門課程修了者に専門士（衛生専門課程）称号付与認定（文部省告示第15号）
H13. 3. 31	下田分教場閉鎖
H17. 11. 28	創立50周年祝賀会 三島プラザホテルにて
H20. 9. 22	新校舎完成・竣工祝賀会
H22. 4. 1	静岡県東部総合美容学校に校名変更
H22. 9. 30	理容学科廃止承認（東海北陸厚生局長）
R22. 10. 1	NPO法人JNEC（日本ネイリスト協会）法人会員入会、ネイリスト認定校（認定番号0163-2）
H24. 3. 8	接遇・マナー認定校（SBS：全日本美容業生活衛生同業組合連合会） 着付け認定校（SBS：全日本美容業生活衛生同業組合連合会）
H24. 4. 1	JNEC日本ネイリスト試験センター3級試験会場登録校認定 カラーコーディネーター認定校（NPO法人日本カラーコーディネーター協会）
H25. 4. 18	Jカラー検定認定校（NPO法人日本カラーコーディネーター協会）
H25. 5. 8	エステティック認定校（SBS：全日本美容業生活衛生同業組合連合会）
H28. 8. 1	日本ヘアケアマイスター認定校（日本ヘアケアマイスター協会）
H29. 2. 28	校内大会（内藤杯）開始
H30. 12. 12	内地留学制度開始（学校法人 京都理容美容専修学校）
R1. 9. 20	大学等における就学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第7条第2項各号、大学等における就学の支援に関する法律施行規則第7条第1項に基づき「高等教育修学支援新制度」に認定。
R2. 1. 22	福祉理美容福祉協会認定校、准福祉美容士、福祉美容士
R2. 2. 28	メイク認定校（SBS：全日本美容業生活衛生同業組合連合会）
R2. 3. 25	職業実践専門課程に認定（文部科学省総合教育政策局長）

R2. 7. 1	まつ毛エクステンション認定校（日本理容美容教育センター）
R2. 7. 31	専門実践教育訓練講座に指定。
R3. 6. 1	インターネット出願開始
R4. 4. 1	御西マイスター講座から Go Dream 講座へと名称変更
R5. 4. 1	校内 LED 化工事開始
R6. 1. 31	ISO29993 学習サービス 認証登録
R6. 10. 28	校内 LED 化工事終了、3 階女子トイレ便器補修
R7. 11. 13	全国理容美容学生技術大会 金賞（フォト部門）、銀賞・銅賞（ネイルアート部門）受賞

(4) 設置する学校・学部・学科等

静岡県東部総合美容専門学校 美容学科 専門課程

静岡県東部総合美容専門学校 美容学科 通信課程

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(R 7 年 5 月 1 日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
静岡県東部 総合美容専門 学校	美容学科 専門課程	80 (2学級)	72 (2学級)	160 (4学級)	118 (4学級)
静岡県東部 総合美容専門 学校	美容学科 通信課程	40 (1学級)	16 (1学級)	120 (3学級)	42 (3学級)

(6) 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
静岡県東部総合美容専門学校 美容学科 専門課程	71.3% (114)	60.0% (96)	73.8% (118)
静岡県東部総合美容専門学校 美容学科 通信課程	29.2% (35)	39.2% (47)	35.0% (42)

令和7年静岡県東部総合美容専門学校 理事・役員 一覧

	常勤・非常勤の別	学内外の別	氏名	前職又は現職	任期
理事長	非常勤	外	久保田寿人	Rogos 株式会社 代表取締役社長	2025.5.12～ 2029. 定時評議員会終結の時 まで
副理事長	非常勤	外	荻澤 章男	ヘアープラザ・オギサ ワ 店主	2025.5.12～ 2029. 定時評議員会終結の時 まで
会計理事	非常勤	外	庄司 一生	庄司理容所 店主	2025.5.12～ 2029. 定時評議員会終結の時 まで
会計理事	非常勤	外	栗野 和夫	ヘアークット kazo 店主	2025.5.12～ 2029. 定時評議員会終結の時 まで
理事	非常勤	外	永倉えり子	キャリアコンサルタント 元社会教育委員長	2025.5.12～ 2029. 定時評議員会終結の時 まで
理事	非常勤	外	増田 裕子	主婦	2025.5.12～ 2029. 定時評議員会終結の時 まで
理事 校長	常勤	内	鈴木 真	静岡県東部総合 美容専門学校 校長	2025.4.1～ 2029.3.31

監事	非常勤	外	杉山 孝二	元市役所職員	2025.5.12～ 2031. 定時評議員会終結の時 まで
監事	非常勤	外	梅原 通夫	元公立・私立高校 校長	2025.5.12～ 2031. 定時評議員会終結の時 まで

評議員名簿

齊藤公治	黒川真一	佐藤 寛	中野幸夫
谷川嘉英	庄司美智子	上原 健	加瀬川和夫
馬上 薫			

(7) 教職員の概要

・職員の本務・兼務別の人数、平均年齢等

本務9名（男1、女8）、兼務者6名（男4、女2）、職員4名（男2、女2）

非常勤職員（男1）

平均年齢：55.3歳

(8) その他

・系列校なし

2 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

評議員会議場報告より

会議の開催と主な内容

第1回理事会・監査	令和7年	4月21日	監査報告と決算
第2回理事会		5月12日	評議員会の議案審議
第3回理事会		7月14日	学校運営上の課題
第4回理事会		9月8日	学校運営上の課題
第5回理事会		12月15日	中間決算と学校運営上の課題
第6回理事会	令和8年	2月9日	提出議案の検討
第7回理事会		3月9日	評議員会の議案審議
通常評議員会	令和7年	5月12日	事業報告と決算
臨時評議員会	令和8年	3月9日	事業計画と予算案

3 教育内容の充実

(1) 経営目標に対する結果

- ① 80人入学者を目指して募集活動 → 61人
- ② 100%の就職率 → 95.7%
- ③ 100%の美容師国家試験合格（通信60%） → 97.8%（通信90%）
- ④ 25%の大会入賞者 → 36%

(2) 行事関係

美容フェスティバルは6月7日（土）に実施した。2年生によるヘア&メイクショーでは、3グループがこれまで培った技能を発揮し、来場者に大きな感動を与えた。会場は満席となり、高校生を中心に美容分野への関心を高める機会となった。展示は、1年生全員の作品と、2年生の部門別優秀作品を展示した。

年度末に予定していた韓国研修旅行は参加人数が集まらず中止となったが、自治会の提案により、代替行事として12月5日（金）に東京ディズニーシーへの研修旅行を実施した。

地域連携・イベント活動としては、6月に職業教育振興会主催「静岡こどもクリエイティブタウン ま・あ・る」に参加し、小学生を対象にカット体験を実施した。8月には長泉町のお化け屋敷イベントでメイクを担当し、三島市「街中だがりや学校」ではボディペイントを行った。10月のハロウィンパレードでは三島大通り3カ所で親子を対象にボディペイントを実施した。また、長泉町文化センター・ベルフォーレで開催された子どもサミットでは、ミュージカル出演者へのメイクボランティアを行った。

(3) コンテストに関すること

4月に実施された2025 THDC CONCOURS 大会のメイク部門で1名が敢闘賞で入賞。9月に実施された東海地区理容美容甲子園でメイク種目4名、まつ毛エクステンション種目2名、ネイル種目4名、デザイン画部門1名、フォトコンテスト部門1名が入賞し、11月の全国理容美容甲子園には、メイク種目1名、まつげエクステンション種目1名、ネイル部門2名、フォトコンテスト部門1名が参加し、フォトコンテスト部門金賞、ネイル部門銀賞、銅賞を受賞し、本校初の快挙となった。10月に実施された山野芸術祭全国大会では、メイク種目メイクの部で1入賞した。JBTPフォトコンテストでは、3位1名、優秀賞5名、理事長賞1名、入賞7名が入賞した。

11月に実施したJUHA JAPON Festival2025ではメイクの部で25名、まつ毛エクステンションの部で5名、ネイルの部で3名、計33名が入賞した。年間通じてコンテストに対して前向きに練習に取り組み、計63名が入賞した。挑戦した学生の35.8%が入賞した。

(4) 検定・国家試験に関すること

検定とディプロマの取得は、「ヘッドスパ」3級、全美連による「接遇・マナー」の2級3級、「着付け」の3級、「メイク」2級、「エステ」3級、「ヘアケアマイスター・プライマリー」「パーソナルカラー」2級3級、「JNEC ネイリスト技能検定」2級3級、「まつ毛エクステンション検定」、「准福祉理美容士」検定試験が行われた。合格率が96.6%と高く、7年連続で91%以上の取得率となった。学生の資質を高めるために、幅広く資格やディプロマを取得できるようになった。

国家試験の合格率は、昼間課程97.8%（実技試験全員合格、筆記試験1名不合格）、通信課程90.0%（実技試験1名不合格、筆記試験全員合格）だった。近年と比較するとよい結果だったが、今後も100%を目指して、更にカリキュラムの工夫を行っていききたい。

(5) 教職員研修

- ア メイク研修（高橋 出先生 R7. 4. 30 実習教員参加）
- イ クリエイティブ・テクニカルスタイル研修（内藤久美子先生 R7. 8. 7 実習教員参加）
- ウ ブリーチ研修（R8. 3. 18 実習教員参加）
- エ カット・ブロー研修（内藤久美子先生・平塚考博先生 R8. 3. 27 実習教員参加）
- オ 即戦力養成講習会（愛知県中日美容専門学校 R7. 8. 4～6・20・21 田代教員参加）
- カ 美容師養成施設教員資格認定研修会（R7. 12. 1～5・8～12 相馬教員参加）
- キ 東海地区理容師美容師養成施設教職員研修会（R7. 11. 21 浜松市 全員参加）
- ク SBS 指導講師研修会（全美連評価認定制度運営委員会 R7. 8. 19 板垣教員参加）
- ケ SBS メイクディレクター2級講習会・認定試験
（全美連評価認定制度運営委員会 R7. 9. 24～26・10. 14～16 井原・田代参加）
- コ SBS メイクディレクター1級講習会・認定試験
（全美連評価認定制度運営委員会 R8. 3. 23～25・30・31・4. 1 井原・田代参加）

(6) 学生募集事業

ア オープンキャンパス

R7 4月12日（土）、4月26日（土）、5月10日（土）、6月14日（土）、7月12日（土）、
7月26日（土）、8月2日（土）、8月19日（火）、8月26日（火）、9月6日（土）、
10月19日（日）、12月6日（土）

R8 2月14日（土）、3月14日（土）3月24日（火）

フェスティバル見学会 6月7日（土）

イ 高校訪問・進路ガイダンス（説明会）

高校訪問では、入学パンフレット等の資料を届けて、体験入学のポスターの掲示を依頼している。
進路ガイダンス（説明会）では、広報担当が高校を訪問し、美容師という職業の魅力や本校の
教育内容・特色について説明を行った。また、各地で開催された進路ガイダンスにおいてブースを
設置し、進学を検討している高校生や保護者に対して個別説明を行った。

ウ 中学生2年生対象の職業体験は錦田中、南中、北中、中郷中、北上中、中郷西中、北中、
南中の7校三島市内全ての中学校で実施。職業講話は中郷西中、北中で実施した。御殿場西
高等学校の「GO DREAM 講座」、知徳高等学校・誠恵高等学校の「ビジネスメイク講座」を
実施。

エ 新入生合格後、入学前ライティング講習会3回を実施。学校開放日を設け、道具を貸し出し
て自主練習の機会を設定し特待生試験に臨む体制を構築できた。

(7) 卒業認定に関する方針

卒業認定については学則に定めがある。

必要な授業時数の定めと評定の定め両面から「学則第9条（教育課程、標準授業時数及び成績評価）」に規定されている。

教科課目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験・実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席停止等の特別な事情を除き、出席時数が標準時数の10分の9に達しない者は、その教科課目について評価を受けることができない。認定の基準は、学則「学則第10条（認定の基準）」に定める。

本校の教育課程の修了又は卒業は、所定の課程を修了した者について学習評価のうえ認める。なお、成績評価及び進級・卒業の認定基準については別に定める。

「学修成果の評価について」は、進級・卒業の認定基準によると以下の通りである。

ア 出席授業時数は、学則に準ずる。

イ 学期毎の期末試験を全て合格しなければならない。

- ・合格点は100点満点中60点以上とする。

- ・不合格者は、追試を受ける。追試合格も60点以上とする。

ウ 各授業の実習成果、履修状況が、その担当教師の判断で「良好」と許可されるものでなければならない

「学則第11条（卒業証書等の授与）」校長は所定の課程を修了したと認めた者には、当該課程の名称及び修業年限を記入した卒業証書を与える。適切に実施するために、各学期に成績会議を行っている。2月は、進級卒業認定会議を行い、上記の認定基準に沿って認定している。

(8) 教育課程編成及び実施に関する方針

科目担当の決定後、担当者同士で授業内容を話し合い、使用教材についても検討する。教材は全教員と事務職員で、教材の適否と金額を検討し、次年度の予算化をする。授業内容については、教育課程編成会議の検討内容と今年度の反省を元に改善点を話し合う。それを元にシラバスの原案を作成し、暫定版とする。その後年度初めに向けて変更したものをHP等に公開する。

(9) 入学者受入に関する方針

入学者の受入については、入学前に出身高校の進路指導教諭から情報を頂き、事前に対応できることは学校全体で受入体制を整える。また、オリエンテーションを2回実施し、学生に不

安を抱かせないように努力している。入学予定者には11月から1月下旬に実施している入学前講習（ワインディング）3回に参加させ、実習授業への不安の軽減と3月の特待生試験のお準備ができるように行っている。（教材については、学校から貸し出し）

4 中期計画

本校は、創立70周年を迎える歴史と伝統を基盤としながら、100周年を見据えた学校づくりを推進する。少子化の進行や社会の急速な変化、美容業界の多様化するニーズに対応するため、職業教育機関としての質保証を図り、地域社会に信頼される学校経営を目指す。

また、「学生の幸福を追求し、挑戦する心を育てる」という経営の目的のもと、「確かな技術・創造の喜び・心のふれあい」の建学の精神を大切にしながら、次の事項を中期的な重点目標として推進する。

(1) 教育の質保証と教育力の向上

本校の教育の質を更に高めるため、職業実践専門課程を基軸とした教育改善を進める。自己点検・自己評価、学校関係者評価及び第三者評価を活用したPDCAサイクルを確立し、教育内容の継続的な改善を図る。

また、学習サービス及び職業教育の質保証に関する国際規格であるISO29993認証について、継続的な内部監査及び改善を実施し、認証の維持・向上に努める。加えて、JAMOTEの評価項目に基づく点検・評価を推進し、職業教育機関としての質保証を一層充実させる。

さらに、国家試験合格率の向上に向けた教育改善を進めるとともに、教職員研修体制を整備し、授業力向上、学生理解及び多様な学習ニーズへの対応力を高める。

(2) 学生募集及び学校ブランド力の強化

少子化が進行する中であっても安定的な学生確保を図るため、高校生及び保護者のニーズを踏まえた魅力ある学校づくりを推進する。

特に、ホームページやSNS等を活用した情報発信の充実、オープンキャンパスや体験入学の内容改善を図り、本校の特色や教育成果を積極的に発信する。

また、創立70周年を契機として、本校の教育の特色や伝統を再確認するとともに、「地域に信頼される美容専門学校」としてのブランド確立を目指す。

(3) 産学連携及び実践教育の充実

美容業界との連携を強化し、現場で求められる実践的な知識・技術を習得できる教育環境の整備を進める。

サロン、美容関連企業及び関係機関との連携授業や実践的教育活動を推進するとともに、最新の美容機器や技術、AI等の先端技術を取り入れた教育を充実させる。

また、美容甲子園をはじめとする各種コンテストへの挑戦を通して、学生の主体性、創造性及び実践力を育成する。

(4) 社会人教育及びリカレント教育の推進

地域に開かれた職業教育機関として、社会人の学び直し及び美容業界における人材育成機能の充実を図る。

専門実践教育訓練給付制度について積極的に周知し、社会人入学者の拡大を目指す。また、卒業生や休眠美容師を対象としたスキルアップセミナー等を実施し、新しい技術や知識を学ぶ機会を提供する。

加えて、関係自治体や関係機関と連携し、リスキリング及びリカレント教育の推進に努めるとともに、短期間講座や夜間教育、留学生受入等の新たな教育課程について調査・研究を進める。

(5) 多様な学習ニーズへの対応と学生支援の充実

学生一人一人の状況や特性に応じた支援を充実させ、多様な学習ニーズに対応できる教育体制の整備を進める。

インクルーシブ教育の視点を踏まえ、学習支援、経済的支援及び相談支援の充実を図るとともに、教職員の専門性向上を目的とした研修を継続的に実施する。

また、美容分野にとどまらない新たな教育ニーズも見据えながら、将来的な教育課程や学科構成について検討を進める。

(6) 学習環境及び施設設備の整備

多様化する教育ニーズ及び教育方法に対応するため、施設設備及び学習環境の改善を計画的に進める。

I C T機器の活用や校務支援システムの導入等、デジタル技術を活用した教育環境整備を推進するとともに、実習環境の充実を図る。

また、将来的なコース別学習や進度別学習への対応を見据え、教室配置や施設規模の改善について検討を進める。あわせて、地域サロンとの連携及び最新美容機器を活用した教育を推進するための実習環境整備について研究する。

(7) 健全な学校経営基盤の強化

持続可能な学校経営を実現するため、安定的な学生確保と財務基盤の強化を図る。

また、教職員の働き方改革や校務の効率化を推進するとともに、卒業生とのネットワークづくりを進め、学校の教育活動及び人材育成機能の充実を図る。

さらに、学校関係者評価や外部評価を活用しながら、地域社会及び美容業界から信頼される学校経営を目指す。

5 財務の概要

決算の概要

(1) 決算の概要 (R 5. 4. 1~R 8. 3. 31)

令和5-7年度 学校法人 静岡県東部理容美容学園 財務の概要

財務状況				
【資金収支計算書】			【資金収支計算書】	【資金収支計算書】
科 目	87 決算額		86 決算額	85 決算額
収入の部			収入の部	収入の部
学生生徒等納付金収入	106,036,300		100,404,325	98,374,100
手数料収入	1,801,400		1,762,300	1,563,100
寄付金収入	0		0	0
補助金収入	10,300,600		9,302,500	10,763,900
資産売却収入	0		0	0
付随事業・収益事業収入	46,802,967		36,140,141	36,636,621
受取利息・配当金収入	324,162		36,627	78,514
雑収入	9,064,129		6,830,040	9,166,469
借入金等収入	0		0	0
前受金収入	43,412,500		40,076,500	31,107,500
その他の収入	80,404,786		77,540,827	87,339,072
資金収入調整勘定	△ 46,016,329		△ 32,698,643	△ 34,606,413
前年度繰越支払資金	230,123,562		200,773,806	210,643,003
収入の部合計	500,077,037		433,157,043	431,408,084
支出の部				
人件費支出	72,134,106		65,666,001	70,666,502
経費支出	94,631,463		73,730,463	73,166,306
借入金等利息支出	0		0	0
借入金等返済支出	0		0	0
施設関係支出	3,260,000		2,666,700	4,275,000
設備関係支出	2,660,660		772,970	200,200
資産運用支出	736,673		634,714	466,666
その他の支出	90,663,073		71,738,300	77,556,814
資金支出調整勘定	△ 7,814,617		△ 6,766,566	△ 7,166,310
前年度繰越支払資金	243,316,437		230,123,562	200,773,806
支出の部合計	500,077,037		433,157,043	431,408,084
			【貸借対照表】	【貸借対照表】
			86 年度末	85 年度末
【貸借対照表】			資産の部	資産の部
科 目	86 本年度末		301,025,267	305,714,627
資産の部				
固定資産	246,603,663		234,242,726	219,760,179
流動資産	262,347,060		325,266,023	321,406,066
資産の部合計	501,150,753			
負債の部			負債の部	負債の部
固定負債	3,000,000		100,168,018	89,379,284
流動負債	114,403,048		100,168,018	91,379,284
負債の部合計	117,403,048			
純資産の部			純資産の部	純資産の部
基本金	642,605,066		642,605,066	639,766,702
繰越収支差額	△ 215,024,964		△ 216,505,081	△ 206,632,963
純資産の部合計	433,747,707		325,266,023	321,406,066
負債及び純資産の部合計	501,150,753			

	【事業活動収支計算書】	単位：円	【事業活動収支計算書】	【事業活動収支計算書】
	科 目	25 決算額	25 決算額	25 決算額
教育活動収支	事業活動収入の部		事業活動収入の部	
	学生生徒等給付金	105,036,200	90,494,323	95,374,100
	手数料	1,801,400	1,782,300	1,563,100
	寄付金	0	0	0
	読書費等補助金	19,300,800	9,302,900	10,783,900
	付随事業収入	45,802,867	35,140,141	35,895,621
	雑収入	9,084,129	6,630,000	9,185,483
	教育活動収入計	182,025,396	144,349,664	156,787,404
	事業活動支出の部		事業活動支出の部	
	人件費	72,113,470	65,695,001	70,565,502
	経費	103,383,381	82,775,219	90,462,650
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	175,506,851	148,470,220	161,028,152
	教育活動収支差額	7,318,545	△ 4,122,354	△ 4,240,748
教育活動外収支	事業活動収入の部		事業活動収入の部	
	受取利息・配当金	329,162	95,627	78,314
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	329,162	95,627	78,314
	事業活動支出の部		事業活動支出の部	
	借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額	329,162	95,627	78,314	
経常収支差額	7,647,707	△ 4,026,727	△ 4,162,434	
特別収支	事業活動収入の部		事業活動収入の部	
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	0	0	0
	特別収入計	0	0	0
	事業活動支出の部		事業活動支出の部	
	資産処分差額	3	0	3
	その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	△ 3	0	3	
特別収支差額	△ 3	0	△ 3	
基本金繰入前当年度収支差額	7,647,702	△ 4,026,727	△ 4,162,431	
基本金繰入額合計	△ 6,243,333	△ 3,638,384	△ 4,594,295	
当年度収支差額	1,404,367	△ 7,665,121	△ 9,156,726	
前年度繰越収支差額	△ 215,503,081	△ 208,652,980	△ 199,904,893	
基本金取崩額	73,750	0	430,600	
翌年度繰越収支差額	△ 215,602,984	△ 218,503,081	△ 208,652,980	
(参考)		(参考)	(参考)	
事業活動収入計	182,154,336	144,445,493	156,864,324	
事業活動支出計	175,506,855	148,470,220	161,028,152	

(2) その他

①有価証券の状況

・該当なし

②借入金の状況

・該当なし

③学校債の状況

・該当なし

④補助金の状況

日本学生支援機構による「学ぶ意欲」のある学生を支援する「私立専門学校修学支援事業費補助金」及び静岡県による、私立専修学校の教育振興を図るための補助金「静岡県私立専修学校運営費補助金」の交付を受けた。

補助金名	補助金交付額
私立専門学校修学支援事業費補助金	15,431,800円
静岡県私立専修学校運営費補助金	3,035,000円

⑤収益事業の状況

・該当なし

⑥関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

・該当なし

イ) 出資会社

・該当なし

⑦学校法人間財務取引

・該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

本校の事業は、学生生徒等納付金収入に依存する割合が高く、安定した学校運営を図るためには、継続的な入学者数の確保が重要な経営課題である。令和7年度は、学生募集活動の成果により入学者数が増加し、学生生徒等納付金収入が増加したことに加え、補助金収入の増加もあり、教育活動収支差額が改善するなど、財務状況に一定の改善が見られた。

また、教育の質向上に向けた授業内容の工夫、国家試験対策の強化、コンテストへの積極的な挑戦、さらには第三者評価及び ISO29993 認証の継続など、本校の教育活動の質保証に関する取組が、学校の魅力向上につながっているものとする。

一方で、少子化の進行や首都圏への進学志向の高まりなどにより、学生募集を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。また、教育内容の充実や物価上昇等に伴う経費増加も想定されることから、経営基盤の安定化に向けた継続的な取組が必要である。

今後は、創立70周年を契機として学校ブランドのさらなる向上を図りながら、ホームページの刷新、オープンキャンパスの充実、高校との連携強化等を通じて、定員の9割以上の入学者確保を目指す。また、国家試験合格率100%、就職率100%を目標に、教育の質保証をさらに高め、学生・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進していく。